

自治会活動の紹介

美住町自治会

美住町自治会文化福祉部 部長 富岡 幸子



2月12日(日)3年ぶりに小和田公民館でフラワーアレンジメント講習会を開催いたしました。

当日は少し寒さがやわらぎました。22名の参加があり、美住町在住華道教授の川勝輝子先生の指導のもと、小豆柳、ガーベラ、スプレーカーネーション、サマースイートピー、ルスカスを生けました。

同じ花でも出来上がったアレンジメントはそれぞれ個性があり、「こうかな?あーかな?」とつぶやきながら仕上げている時間は本当に楽しいものでした。

先生が各テーブルをまわってひとりひとりにアドバイスをしてくださいました。皆様、素敵なアレンジメントが出来上がりました。

久しぶりに会えたと挨拶される方、初めて参加の方、お友達同士で参加の方、公民館2階に暖かい空気が流れ、待ち遠しい春を一足先に皆様のご自宅に持ち帰っていただけたと思います。



常盤町自治会

常盤町自治会 会長 高橋 一紀

今年度はコロナ禍を考慮して、屋外での行事を中心に行うことにしました。例年ですと最大行事は地引綱大会です。久々に9月に地引綱大会を開催しようと準備しましたが、直前になって台風の影響で残念ながら中止となってしまいました。

10月には子ども部さんを中心に「おもいほり」と「ハロウィンのお菓子配り」を行うことができました。子どもたちは芋蔓を使ったクリスマスリース作りにも挑戦して楽しそうでした。

11月には昨年度に引き続き「町内清掃」(鉄砲道沿いの掃除)を行いました。30人ほどに集まっていたいただき、1時間程で終了できました。特にゴミ集積場脇の植栽帯には不法投棄物が多くありましたが、おかげさまで綺麗にすることができました。



12月には20人程の人が集まり、久しぶりに「常盤サロン」を開催できました。ウクレレ演奏、フラダンス鑑賞のほか、椅子に座ったまま出来る体操など、参加した皆さまはリラックスすることができた様子でした。



汐見台自治会

汐見台自治会 会長 谷口 哲

私の幼少期(約40年ほど前)、茅ヶ崎市の最南東端に位置する汐見台は、松浪地区においても常に端に位置し、地域学区の中央に位置する松浪小学校、松浪中学校は常に最遠の地区でした。その当時の汐見台は、会員数100名未満の小さい地区で、単独でのイベント行事開催はなく、お隣の常盤町と一緒に活動していました。



ここ10数年で、高層住宅が次々と立ち並び、住民が増え、地域の街並みも変わり、会員は300世帯を超え、地域の活性化がうかがえます。

近年の活動は、コロナによる規制があったものの、役員と協議の上、今年度は、地引綱大会が荒天により炊き出しに変更したほかは、夏休みラジオ体操、ハロウィン、防災訓練、もちつき大会を実施、自治会旅行も2月に計画しています。

秋には松浪中学1年生と地区防災マップづくりの現地調査で、彼らが見つけた課題を自治会と連携し行政へ持ち掛け、対応してもらえたことが、2月の発表会で報告され、若い力も加わった自治会活動の成果として嬉しく思える出来事がありました。

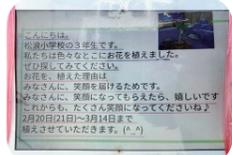
イベントなどを通じて、地域内のコミュニケーションの活性、防災への備えにつながるという思いから、今後も積極的に活動ができればと思っています。自治会活動はネガティブなイメージもあると思いますが、自分の住む町が少しでも楽しく住みよい町でいられるよう、より多くの方に関わってもらえたらありがたいですね。

浜竹四丁目自治会

浜竹四丁目自治会 会長 末松 一豊

浜竹四丁目自治会では毎年初夏の地引綱大会と厳冬の餅つき大会の二大イベントにおいて、数百人規模での交流を楽しんでいましたが、今年度はオミクロン株によるコロナ感染の波が第6波・第7波・第8波と繰り返され、やむなく中止としました。

中学校、体育振興会、社会福祉協議会、青推協などのイベントも相次いで中止となったことは真に残念でなりません。そんな中で一筋の光明が、子ども部のハロウィンとクリスマス行事を楽しめたことです。共に拠点の兵金山会館にプレゼントを受け取りに自宅との間を時間帯を決めて往復する内容でしたが、仮装や着飾った子どもたちや付添の家族の皆さんと記念写真を撮ったり、対話を楽しめたことは貴重な思い出となりました。



また、松浪コミセンまつりの盛り上がりでは久々の大規模イベントの輪に加わって楽しめました。

地区防災訓練に際しては、浜四独自の安否確認を行い約85%という素晴らしいデータを記録出来ました。組長の皆さんと防災会の活躍でした。

春先には浜竹公園など地域の公園や空き地に持ち込まれた松浪小学校三年生の花のプランターの展示では、地域に向けた様々なメッセージを受け取り勇気と励ましとなりました。



まつなみだより

会長あいさつ



松浪地区の皆さまにおかれましては益々で健勝のこととお喜び申し上げます。

今年の元旦は天候に恵まれ、多くの皆さんが最高の初日の出をご覧になったことと思います。

私も令和5年の松浪地区まちぢから協議会が以前のように様々な事業を計画立案できるよう、初日の出に願をかけてきました。

昨年10月には待ちに待ったコミセンまつりを開催することができ、当日は天気も良く元旦の海岸に負けないほどの来場者で、地域のコミセンまつりらしい賑わいがありました。



令和5年3月15日発行(第28号)
発行:松浪地区まちぢから協議会
HP: <https://matunami.jimdofree.com/>
印刷:(有) 仲手川印刷



松浪地区まちぢから協議会 会長 前田 積

りました。
年明けの1月14日には、久しぶりの賀詞交歓会を開催することもでき、佐藤市長、副市長、部課長など行政から十数名と地元市議会議員、学校の校長・教頭先生、運営委員会メンバー等の総勢56名が集まりました。飲食無しで各自自己紹介のみの交歓会でしたが、顔の見えない期間が続いていただけによりやく地域活動に関わって下さる皆さんの顔が見られて良かったと思いました。

3月には「春のさくらコンサート」を計画しています。
今年は松浪地区まちぢから協議会としてたくさんの事業を行い地域活性化に繋げていきたいと思っておりますので、皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

令和5年松浪地区賀詞交歓会

松浪地区まちぢから協議会 書記 佐々木 睦子



1月14日(土)に松浪コミュニティセンターで3年ぶりに松浪地区賀詞交歓会を開催いたしました。当日は、茅ヶ崎市から佐藤市長始め、塩崎・岸両副市長など職員12名・茅ヶ崎市社会福祉協議会、地域内小中学校関係者、地域選出市議会議員のご来賓の方々にご出席を賜り、まちぢから運営委員の方々を含め、総勢56名の参加がありました。

前田会長は、開会挨拶で、元旦の素晴らしい初日の出に、松浪地区まちぢからが輝かしく発展することを願い、今年もいろいろな行事を予定しているので行政や地域の皆様のご協力をお願いされました。次に、佐藤光市長は茅ヶ崎市今年からは人と物を動かし攻めの戦略に転じていきたい、松浪地区は茅ヶ崎を先導する地域になっていただきたいと述べられました。その後は、松浪小学校安倍校長先生が、子ども達の安全を守り、目の前にいる子ども達に何が出来るかを考え、六校の学校が連携を保ちながら松浪地区の子ども達のために教育活動をしていくので地域の皆さんで見守ってほしいとご挨拶がありました。

今年はコロナ禍ですので、持ち帰りのお弁当とお茶を用意しました。末松副会長がご来賓の方や運営委員の皆様をテーブルごとにご紹介して、全員にご挨拶をしていただきました。顔を合わせるのが初めての方も多く、全員がご挨拶に熱心に耳を傾けておられました。最後は、朝岡副会長の三本締めでお開きとなりました。終わった後もあちらこちらで立ち話が始まり、皆さん笑顔でお話されていたのが印象に残っています。この賀詞交歓会を通して、相手の顔を見ながらコミュニケーションをとることの大切さを改めて実感いたしました。

今年は、顔を見ながら、対話しながら、ふれあいがいろいろ活動をやっていたいと思えた一日でした。



編集後記

- ★2月18日に松浪中学校で地域ふれあい講座が実施されました。地域の講師の方から真剣に学ぶ生徒たちの眼差しが印象的でした。3月は卒業の季節。私たちは卒業のない学校で万象は我が師と学び続けたいものです。(小松 真生)
- ★少しずつ地域での活動が復活してきました。「まつなみだより」では、笑顔あふれる松浪地区の活動をお伝えしていきたいと思っております。(佐々木睦子)

松浪地区防災訓練

仮想避難所で災害時を体験

松浪地区まちぢから協議会 防災対策部会 副部会長 中井 汎

【時間差による「分散型」訓練を実施】

令和4年11月20日(日)、松浪地区まちぢから協議会で地区防災訓練を実施しました。

これまでコロナ感染拡大が続き3年間も防災訓練を実施することが出来ませんでしたので、いつ来るかわからない災害に対する防災意識を住民の皆様に喚起するため、コロナ禍でも実施可能な防災訓練を検討しました。まずは「3密」を回避するために、松浪地区14自治会を松浪小学校、松浪中学校に分散、さらに自治会毎に時間差での参加、各自治会参加者数を「定員制限」(30～40名)して実施することになりました。そのため、これまでの参加者800名前後が、今回は368名と小規模に抑えることが出来ました。

また、同時に自治会毎に任意で「安否確認訓練」を実施しましたが、安否確認率は70～80%で、住民の多くの方々にも安否確認訓練に参加をしてもらえました。



ワンタッチパーティーション



濃煙体験

▲松浪小学校での訓練



▼松浪中学校での訓練

展示品の説明を聞く参加者



起震車体験



仮設トイレ組み立て

【備蓄資機材の展示で実際の避難所をイメージ】

訓練内容は、松浪中学校で起震車体験、松浪小学校で濃煙体験を実施したのと、これまで避難所のイメージが漠然としか分らなかったのが、学校の災害備蓄資機材の展示を見学し、体験をして避難所を具対的にイメージしてもらうことが出来ました。

参加者の多くは、短時間ながら少人数のため、各展示品についてじっくり説明が聞けたのと、パーテーションに入ってみたり、簡易トイレに実際座ったり、現実の体験が出来たため、貴重な経験になったようです。

また、自宅用備蓄品セットの展示は、各家庭備蓄品見直しの参考になったのと、1家族の居住スペースを区画割り表示をして実際の避難所をイメージしてもらうことも出来ました。

参加者の感想は好評でした。これも学校職員、市の防災対策課職員(7名)と配備職員(16名)、関係者皆さんの全面的なバックアップによるものです。

松浪地区さんぽ道

～松浪小学校誕生物語8～ 元松浪小学校教頭 鴨志田 聡



今回は平成8年(1996)PTA広報誌特集『松浪小学校の生い立ちとあゆみ』から、開校当時の松浪小学校にまつわるエピソードを紹介したいと思います。

◆校歌・校章

校章は、募集で新倉正信さんのものに決まりました。校歌の作詞は、学校設立にご尽力頂いた小生第四郎先生、作曲は民放にお勤めだった石田一郎先生によるものです。校長先生とPTA会長がお宅にお願ひに行かれ、お二人とも子どもさんは通われていないのに、地域のことからということで無報酬で引き受けてくださいました。(小生第四郎先生は茅ヶ崎を代表する文化人でした。あらためてご紹介します。)

◆施設業務員・最首隆子さんの思い出

(昔は用務員さんと呼ばれていました)

当時は、今の様にチャイムが無いので、授業の始めと終わりにカランカランと鐘を鳴らして回ったもんだよ。うっかりすると時間が過ぎてしまつてね。

教室やトイレの掃除も大変だった。子ども達が来る前に校庭の掃除をして、今のようにごみを集めて来てくれないので、校庭に大きな穴を掘ってそこで毎日ごみを燃やさなくてはならなかったんだよ。当時は物が簡単に手にはいらなかったからね。お客様用のスリッパが、はじめは「わらぞうり」だったんだが、市役所から来客用のスリッパとして十足ほどくるようになったんだよ。ポロボロになってしまうと、それを繕

うのもおばさん(私)の仕事だったね。

夜は二回、校舎内を見回りに行かなければならないが、広くて怖いのでコロという犬を飼っていて一緒に見回りに行ったもんだよ。犬も心得ていて、鍵を持つと見回りだと追って来たね。その頃は先生にも泊まりがあつて、食事の世話や部屋の掃除、布団の打ち直しまでしたね。けがをした子に薬をつけてやったり、気分の悪くなった子を家まで送ってやったり、何でもやったね。

学校のまわりは、みんなたんぼといも畑。スーパーたまやの前あたりは松林だったよ。

家はほとんどなくて、月見草がやたら咲いていたね。この辺は大雨が降ると水がついて、あちこち小さな水たまりができ、大八木さんの池から鯉や金魚がたんぼの中に逃げ出したりしてね。ザリガニもたくさんいたね。ヘビがやたらにいて、子ども達のおもちゃだったよ。



第12回 松浪ふれあいネットワーク交流会(住み慣れたまちの地域福祉を考える地区懇談会)

松浪地区民生委員児童委員協議会 会長 高田 陽子

2月12日(日)に4年ぶりのネットワーク交流会を松浪地区社会福祉協議会と松浪地区まちぢから協議会の共催で実施しました。コロナの影響で人数制限があったため以前の半数ほどの規模で行いましたが、まちぢから、社協のメンバーと地区内の福祉施設や教育施設等から55名の参加がありました。

地区社協坂井会長の「最近のニュースから防災、防犯もとても大事だけれども福祉も大切。このまちで支障なく住んでいくために、それぞれの力が必要。各々紹介しあって顔の見える関係を築いていきたい」とテーマに基づいた挨拶で始まりました。続いてまちぢから前田会長の挨拶があり、その後、市福祉政策課職員と市社協職員の紹介がありました。地区内の松浪小、松浪中、緑が浜小の校長先生の挨拶もあり、松浪地区と学校の良い関係も知る事が出来ました。民生児童委員の紹介をした後、今回のメインとも言える団体、施設の紹介が行われました。

小和田公民館からはようやく公民館まつりが出来る事。

